

1 論文種別
2 資料論文
3
4 論文題目
5 実るほど稲穂は首を垂れるか？——地位と感謝の関連に
6 おける矛盾の解消——
7 Do the boughs that bear most hang lowest?: The
8 relationship between status and gratitude
9
10 著者名
11 白木優馬
12 Yuma Shiraki^{1, 2, 3}
13
14 所属機関
15 名古屋大学大学院教育発達科学研究科
16 Graduate School of Education and Human Development,
17 Nagoya University
18
19 所在地
20 〒464-8601 愛知県名古屋市千種区不老町
21 Furo-cho, Chikusa-ku, Nagoya 464-8601, Japan.
22
23 著者連絡先
24 shiraki.yuma@nagoya-u.jp
25
26
27

和 文 要 約

1
2 題目：実るほど稲穂は首を垂れるか？——地位と感謝の
3 関連における矛盾の解消——
4

5 これまで、地位は感謝の気持ちに影響を与えることが
6 明らかにされてきた。しかし、従来の研究では、地位と
7 感謝の間に負と正の両方の関連が確認されており、一貫
8 性がない。本研究は、この原因が二種類の地位の混同に
9 あると想定して検討した。具体的には、他者を恐怖によ
10 っ支配する支配型の地位と、周囲の他者から尊敬を集
11 める名声型の地位のそれぞれが、感謝特性と負および正
12 の関連を持つという仮説を検証した。クラウドソーシン
13 グワーカー 502 名を対象とした質問紙調査の結果、仮説
14 は支持され、二つの地位は感謝特性と対照的な関連を持
15 つことが明らかとなった。なお、地位と感謝特性との関
16 連は、Big five のパーソナリティ特性を統制した上でも
17 有意であった。最後に、地位と感謝との対照的な関連の
18 原因について議論した。
19

20 キーワード：感謝，地位，支配，名声
21

English abstract

23 Title: The boughs that bear most hang lowest?: The
24 relationship between status and gratitude
25

26 Previous studies have found contrastive relationships
27 between individual status and gratitude. Some studies
28 suggested the positive relationship, but the others found
29 the negative one. The current study divided the status
30 into two types, dominance and prestige, and investigated
31 their relationships with gratitude trait. A total of 502
32 crowdsourcing workers answered the questionnaire. As a
33 result, prestige status had a positive relation with
34 gratitude trait. In contrast, dominant status correlated
35 to gratitude trait negatively when the effect of prestige
36 status was controlled. These results supported our
37 hypothesis. Finally, these relations were significant
38 even after controlling other personality traits (Big-five).
39 Interpretation of the contrastive relationships of two
40 status and gratitude were discussed.
41

42 Keywords: Gratitude, status, dominance, prestige
43
44

1 高い地位を築くにつれ，傲慢になり，周囲への感謝を
2 感じにくくなる人がいる。一方で，実るほど頭を垂れる
3 稲穂のように謙虚になり，感謝を感じやすくなる人もい
4 る。このように，地位の確立と感謝の間には，負と正の
5 二種類の関連が存在する (Bartlett, Ornelas, & Valdesolo,
6 2016; Inesi, Gruenfeld, & Galinsky, 2012)。しかし，こ
7 れまでのところ，その原因は明らかにされていない。そ
8 こで本研究は，地位と感謝が対照的な二種類の関連を持
9 つ原因について検討した。

10 感謝と地位との関連

11 向社会的行動の利益を認知した受け手が，送り手に感
12 じるポジティブな感情を感謝という (Tsang, 2006a)。感
13 謝の喚起は，受け手の well-being を増進し (Wood, Froh,
14 & Geraghty, 2010; Wood, Joseph, & Maltby, 2009)，送り
15 手に対する返報行為を促進する (Tsang, 2006a)。感謝の
16 喚起を予測する要因として，Gratitude Questionnaire-6
17 (GQ-6) で測定される特性的な感謝の感じやすさをはじ
18 めとして (Wood, Maltby, Stewart, Linley, & Joseph,
19 2008)，価値やコスト，送り手の意図といった向社会的行
20 動に伴う状況的要因などがある (Tesser, Gatewood, &
21 Driver, 1968)。特に最近では，その中でも利益の受け手の
22 地位が着目されている。

23 地位とは，資源の分配や葛藤の解決，集団の意思決定に
24 対して，ある個人が及ぼす影響力の程度を指す (Cheng &
25 Tracy, 2014)。特に本研究では，個人が他者に対して及ぼ
26 す主観的な影響力の程度に着目して地位を捉える。地位
27 の高さや感謝の関連を検討した一部の研究は，利益の受
28 け手の地位の高さが感謝の喚起を弱めることを示してい
29 る。例えば，Inesi et al. (2012) の実験において，パー
30 トナー (サクラ) の課題成績を評価する立場になった参
31 加者は，その相手からの好意に感謝を感じにくかった。
32 これは，高地位者が，低地位者からの好意に見返りの期
33 待 (i.e., 良い評価) を感じやすいことに起因する。つま
34 り，相手を評価するという高い地位を割り当てられたこ
35 とで，他者からの好意を素直に受け入れられず，その結
36 果として感謝を感じにくくなったのである。また，地位
37 の高さや感謝の喚起の弱さとの関連は，社会的に共有さ
38 れた知識としても存在する。Tiedens, Ellsworth, &
39 Mesquita (2000) は，プロジェクトを成功させた上司と部
40 下の二人に関するシナリオを提示し，両者の感情状態を
41 参加者に推測させた。その結果，参加者は上司に喚起し
42 た感謝は部下よりも弱いと推測した。反対に，地位関係
43 を伏せた状態で，プロジェクトの成功後に一方が感謝を
44 感じ，他方が誇りを感じたという情報を付加した場合，
45 参加者は，前者を部下 (i.e., 低地位者)，後者を上司
46 (i.e., 高地位者) だと判断しやすくなった。このように，

1 実際の感謝の喚起に与える影響に加えて、高地位者は感謝
2 を感じにくいというステレオタイプの判断も存在して
3 いる。
4 一方で、その他の研究からは、利益の受け手の地位の
5 高さが感謝の喚起を強めることが明らかになっていく。
6 他者に影響を与えた経験を想起させることで参加者の主
7 観的な地位を操作した実験では、地位の高まりが自尊心
8 の高揚を介して、感謝の喚起を促進することが示されて
9 いる (Bartlett et al, 2016)。さらに、所属社会における
10 個人の主観的な社会経済的地位 (Socio economic status)
11 と、感謝特性 (GQ-6) との関連を検討した横断調査では、
12 両変数間に正の相関が確認されている (Shiraki, 2016)。
13 以上のように、地位と感謝の関連を検討した先行研究
14 の知見は整合的ではない。むしろ、負の関連と正の関連
15 のどちらもが存在するという矛盾を抱える。それでは、
16 なぜこのような矛盾が存在するのだろうか。本研究は、
17 二種類の地位の混同にその原因があると予測する。

18 二種類の地位と感謝

19 Cheng & Tracy (2014) は、地位に関する従来の知見を
20 進化的な観点から統合的に解釈し、地位には支配型と名
21 声型の二種類があることを明らかにした。そして、進化
22 的環境において、それぞれの高地位者の存在が担った適
23 応機能について論じている。
24 支配型の高地位者とは、他者の資源 (e.g., 評価) に影
25 響力を持ち、威嚇や威圧によって恐怖を与え、低地位者
26 を従わせ、者を指す。進化的環境において、低地位者は
27 自分の資源を確保するため、高地位者を怒らせないよう
28 に行動する必要があった。集団内の支配型の高地位者の
29 存在は、集団成員の反抗の抑止力となり、葛藤にかか
30 コストを低減させた。そして同時に、集団内の協働を促
31 進したとされる (Cheng & Tracy, 2014)。対照的に、名
32 声型の高地位者とは、高度な技術と成功によって所属集
33 団の成員から慕われ、高者を指す。進化的環境において、
34 猟や道具の製作を始めとした各領域で高度な技術を
35 集団内で成功を収めた者が名声を獲得した。進化的環
36 境において技術を習得する際、他者からの社会的学習が
37 要であった。このとき、集団の成員は名声の高さをキ
38 ーワードとして学習の対象を選択した。これにより、彼
39 らは必要な技術を効率的に習得することができた。名
40 声型の高地位者の存在は成員の技術の習得を促進する
41 こととされる (Cheng & Tracy, 2014)。
42

43 対照的な影響過程を持つ支配型と名聲型の高地位者は、
44 パーソナリティにおいても同様に対照的な特徴を有する。
45 Cheng, Tracy, Foulsham, Kingstone, & Henrich (2013) は
46 質問紙調査によって、支配型および名聲型の地位に関す

1 個人の主観的評価および友人による他者評価と、本人の
2 パーソナリティ特性との関連を検討した。その結果、支配
3 型の高地位者は、自己愛、攻撃性と正の関連を持ち、
4 協調性とは負の関連を持つことを明らかにした。そして、
5 名声型の高地位者は、自尊心、外向性と正の関連を持
6 ち、攻撃性とは負の関連を持つことを示した。
7 他方で、Emmons & McCullough (2003) は、これらのパ
8 ーソナリティ変数と感謝特性との関連を検討し、感謝特
9 性の高さが、外向性、協調性、誠実さの高さと正の関連
10 を持つことを明らかにしている。さらに、他の研究から
11 は、感謝の喚起と自己愛傾向が負の関連をもつことや
12 (Farwell & Lloyd, 1998)、感謝の喚起が攻撃性を低減さ
13 せることが示されている (DeWall, Lambert, Pond,
14 Kashdan, & Fincham, 2011)。

15 ここまでに示した支配型と名声型の高地位者および感
16 謝特性の高い個人のパーソナリティ的特徴を Table 1 に
17 まとめる。Table 1 より、支配型の高地位者は感謝特性の
18 高い個人と対照的なパーソナリティ的特徴を持つことが
19 わかる。一方、名声型の高地位者は感謝特性の高い個人
20 と類似した特徴を有することがうかがえる。以上より本
21 研究は、先行研究において地位と感謝の対照的な二種類
22 の関連が確認されていた原因が支配型と名声型の地位の
23 混同に起因すると仮定し、二つの地位と感謝の関連を検
24 討した。なお先行研究においては、地位の操作が状態的
25 な感謝の感情に影響をおよぼすという因果関係が示され
26 ているが、Table 1 に示した知見はあくまでも個人特性の
27 レベルでの共通点を示したものである。したがって、
28 Table 1 からは二つの地位と感謝との因果関係を断定す
29 ることはできない。そこで本研究では、二つの地位と感
30 謝を個人特性として扱い、それぞれの変数間に理論的予
31 測と一致した相関関係がみられるかを確認することにし
32 た。具体的には、以下の二つの仮説を検討した。

33 仮説

34 仮説 1：支配型の高地位者ほど感謝特性が低い

35 仮説 2：名声型の高地位者ほど感謝特性が高い

36
37
38 このとき、地位と感謝特性の関連が他のパーソナリテ
39 イ特性の影響に還元されないことを確認するために、Big
40 five 特性をあわせて測定し、分析時に統制することとし
41 た。

42 方法

43 実験参加者

44 クラウドソーシングサービス (CrowdFlower) に登録
45 しているワーカー 600 名を対象に調査を実施し、サテ
46

Table 1

1 スフェイス項目 (Oppenheimer, Meyvis, & Davidenko,
2 2009) を通過した 502 名 (男性 318 名, 女性 185 名, 不
3 明 1 名; $M_{age} = 35.47$, $SD = 10.39$) を分析の対象とした
4 4。調査終了後, 白木・五十嵐 (2015) を参考に, 参加者
5 一人あたりにつき 0.2USD 程度の報酬を支払った。

6 質問紙の構成

7 教示および質問はすべて英語であった。年齢, 性別,
8 および国籍について尋ねたあと, 続く質問に対して回答
9 するように求めた。回答はすべて 7 件法で測定した。

10 感謝特性 日常的に感謝感情を感じやすいパーソナリ
11 ティ特性を測定する GQ-6 (McCullough, Emmons, & Tsang,
12 2002) を使用した。“*I have so much in life to be thankful*
13 *for.*”など 6 項目について回答を求めた ($\alpha = .80$)。

14 主観的地位 Prestige-Dominance Scale (Cheng et al.,
15 2013) を使用した。この尺度は支配型地位 (“*I enjoy*
16 *having control over others*”など 8 項目; $\alpha = .79$), 名声
17 型地位 (“*Members of my peer group respect and admire*
18 *me.*”など 9 項目; $\alpha = .83$) の二つの下位因子から構成さ
19 れる。周囲の他者との関係性において, それぞれの項目
20 が自分にどの程度当てはまるか回答するように求めた。

21 パーソナリティ Ten Item Personality Inventory
22 (Gosling, Rentfrow, & Swann, 2003) によって参加者の
23 Big five 特性を測定した。外向性, 協調性, 誠実性, 開
24 放性, 神経質傾向の 5 つのパーソナリティ特性をそれぞ
25 れ 2 項目で測定した。

26 結果

28 本研究で使用した変数の記述統計を Table 2 に示す。変
29 数間の単相関を確認したところ, 支配型の地位と感謝特
30 性の相関は有意でなかった ($r = -.034$, *n.s.*)。一方で,
31 名声型の地位と感謝特性は有意な正の相関を持つことが
32 明らかとなった ($r = .562$, $p < .001$)。以上の結果から
33 は, 名声型の高地位者ほど感謝特性が高いという仮説 2
34 のみが支持された。

35 その一方で, 支配型と名声型の地位は有意な正の相関
36 を持っていた ($r = .274$, $p < .001$)。ここから, 支配型の
37 地位と感謝の関連に, 名声型の地位の影響が混在してい
38 る可能性を考慮し, 偏相関を算出した。名声型の地位の
39 影響を統制した上で, 支配型の地位と感謝特性の相関を
40 確認したところ, 有意な負の相関を持つことが明らかと
41 なった ($r = -.236$, $p < .001$)。この結果, 支配型の社会
42 的地位の高い人ほど感謝特性が低いという仮説 1 も支持
43 された。なお, 支配型の地位の影響を統制した場合も,
44 名声型の地位と感謝特性は有意な正の相関を持っていた
45 ($r = .594$, $p < .001$)。

46 さらに, 補足的な分析として, Big five を統制した上

Table 2

1 で、支配型および名声型と感謝特性との偏相関を確認し
2 た。その結果、感謝特性と支配型の地位は負の相関を持
3 つ一方 ($r = -.151, p < .001$)、名声型の地位は正の相関
4 を持つことが明らかとなった ($r = .410, p < .001$)。ここ
5 から、支配型および名声型の地位と感謝特性の関係が、
6 他者のパーソナリティ特性の影響に還元されないことが確
7 認された。

8 9 考察

10 本研究の目的は、地位と感謝の対照的な二種類の関連
11 の原因が、支配型と名声型の地位の混同に存在する可能
12 性を検討することであった。個人の主観的な地位を支配
13 型と名声型に弁別して感謝特性との関連を検討した結果、
14 仮説は支持され、支配型の地位と感謝特性は負の相関を
15 持ち、名声型の地位と感謝特性は正の相関を持つことが
16 明らかとなった。また、支配型および名声型の地位と感
17 謝特性の関連は、他のパーソナリティ特性を統制しても
18 有意であった。以上より、これまでこの研究で示されて
19 た、地位と感謝の二種類の関連が、支配型と名声型の地
20 位の混同に起因する可能性が示唆された。このことは、
21 過去の研究で用いられた指標の特徴を解釈するこ
22 とによって示唆される。例えば、地位と感謝
23 の負の関連を明らかにした研究の一つは、他者を評価す
24 る役割を与えることで参加者の地位を操作していた
25 (Inesi et al., 2012)。この研究では、低地位者の資源 (i.e.,
26 評価) を左右する権限の付与という地位の操作が、支配
27 型の地位と関連したと考えられる。他方で、地位と感謝
28 の正の関連を示した研究の一つは、地位の指標として社
29 会経済的地位を用いていた (Shiraki, 2016)。ここでは、
30 社会経済的地位の高さが社会的成功の程度を反映し、名
31 声型の地位の代替的な指標となっていた可能性があるだ
32 ろう。このように、地位の指標の特徴を解釈すると、先
33 行研究で確認された結果が本研究の理論的背景と整合的
34 であることがわかる。ただし、支配型および名声型の地
35 位と、これまでの地位の指標との直接的な対応関係は明
36 らかではない。したがって、以上の解釈の妥当性につ
37 ては改めての検討が必要とされる。関連は、以下の二
38 点から解釈できる。一つは、好意の提供者の自由意志に
39 関する問題である。人は、自由意志に基づかない行為に
40 対して感謝しにくい (MacKenzie, Vohs, & Baumeister,
41 2014)。支配型の高地位者は、恐怖を与えて他者をコント
42 ロールし、自由意志に基づかない行為を強制させるため、
43 必然的に自由意志の弱い他者と接触する頻度が高くなる。
44 そうした経験が重なるにつれて、他者の自由意志を感じ
45 にくくなる可能性もあるだろう。その結果、好意を提
46

1 された際も、他者の自由意志を低く評価することでは感謝
2 の喚起が弱まる。と考えられる。二つ目は、利己的な意図
3 の影響である。送り手の利己的な意図は受け手の感謝喚
4 起を弱める (Tesser et al., 1968; Tsang, 2006b; Watkins,
5 Scheer, Ovnicek, & Kolts, 2006)。支配型の高地位者は、
6 恐怖を与えて他者をコントロールするため、周囲の他者の
7 回避を求めたり、好意を提示する他者には、取り入り配
8 高地位者に接近し、好意を提示する他者には、取り入り配
9 や見返りへの期待を伴うと考えられる。その結果、支配
10 型の高地位者は、他者の好意に見返りの期待を感じるこ
11 とで感謝を感じにくくなる。すなわち、高地位者は自身
12 の地位を確立すること、結果的に取り入りを目論む低考
13 地位者に対して感謝しにくく、状況を生み出していき、考
14 えられ、以上のようにより、支配型の高地位者は、他者
15 コントロールする力を持つために、周囲の他者に感謝を
16 感じにくい状況を作り出し、可能性がある。高地位者は、
17 名声型の地位と感謝特性の高さの関連は、名声型の高
18 地位者の特徴に起因する可能性がある。名声のある人物
19 は、自己卑下的で成功を集団に帰属する (Henrich, 2015)。
20 感謝は、他者から利益を与えられたことを認知した際に
21 喚起する感情であるため、ある成果を得たとき、その原
22 因を集団や他者に帰属する名声型の高地位者は、感謝を
23 感じやすいと考えられる。感謝特性の正の関連は、以下
24 のようなプロセスによって、集団に属する成員の生存可
25 性の向上に寄与した可能性がある。集団の成員は、名声
26 の高さをキープし、高地位者を対象とした技術の社
27 会的学習を行う (Cheng et al., 2013)。このとき、名声
28 の高地位者は高い感謝特性を備えるため、集団の成員は
29 技術と感謝の喚起は無意識的な模倣や同調行動を促進
30 される (Jia, Lee, & Tong, 2014; Jia, Tong, & Lee, 2014; Ng,
31 Tong, Sim, Teo, & Loy, 2016)。したがって、成員に内
32 化した感謝のしやすさは、実際の感謝喚起を介して模倣
33 に基づく社会的学習を促した可能性がある。以上の点を
34 考慮すると、名声型の高地位者を対象とした直接的な社
35 会的高地位者を対象とした直接的な社会的学習と、感謝
36 喚起を介した模倣という二つのプロセスを通じて、高
37 地位者を獲得できる過程において、名声型の地位と感謝
38 特性の関連が重要な役割を担った可能性が示唆される。
39 先行研究が、地位と感謝の因果関係を特定する必要がある
40 ため、本研究の目的は、地位と感謝の因果関係を特定す
41 ることである。本研究は、地位と感謝の因果関係を特定す
42 ることである。本研究は、地位と感謝の因果関係を特定す
43 ることである。本研究は、地位と感謝の因果関係を特定す
44 ることである。本研究は、地位と感謝の因果関係を特定す
45 ることである。本研究は、地位と感謝の因果関係を特定す
46 ることである。本研究は、地位と感謝の因果関係を特定す

1 確と性あ連いに。あて項参可評標 感た。て
2 の謝能で関な查がき定、いの指 のしるめ
3 位感可查のき調要で測めな者い 謝討れ改
4 地、つ調性で断必定のたい他高 感検らを
5 のに持な特に縦る測位むてるの とてえ連
6 型らを的ィか、すか地含しす性 位い考関
7 声さ係断テらや定しのを映属当 地つとの
8 名。関横リ明験特知型容反所妥 はにる謝
9 てうなのナを実を認配内になり 究因あ感
10 しろ的でソ係た係の支い確団よ 研原がと
11 とだ環点一関し関人、な正集、 本の義位
12 果る循時パ果作果個にえを一ど、 連意地
13 結れう一の因操因く特い向同な が関の、
14 、ら合は謝めをのづ。は傾、察 るた定らる
15 めえめ究感た位者基ると動は観。あし一かな
16 収考高研とい地両にあり行に動るは盾、点に
17 をもを本位なや、定がしの的行あ界矛り観要
18 功スい、地ぎ謝て評題ま際来るが限るあな重
19 成セ互し、過感じ観問望実将よ性なすでのが
20 の口にかえに、通主うにか。に要う関み角と
21 でプいし加たてを、的答る者必よに試多こ
22 中る互。にしつ討にと会回あ三るのさの、る
23 の至がると認が検次い社のが第い上すてはす
24 団に位あこ確たる。なは者性や用以やめ後討
25 集立地もるをしよるい目加能定をじ初今検

1
2 引 用 文 献

- 3 Bartlett, M., Ornelas, M., & Valdesolo, P. (2016). When
4 power increases gratitude. *Paper Presented at 17th*
5 *Annual Convention of Society for Personality and*
6 *Social Psychology* (San Diego, USA).
- 7 Cheng, J. T., Tracy, J. L., Foulsham, T., Kingstone, A.,
8 & Henrich, J. (2013). Two ways to the top: evidence
9 that dominance and prestige are distinct yet viable
10 avenues to social rank and influence. *Journal of*
11 *Personality and Social Psychology*, 104, 103-125.
12 doi:10.1037/a0030398
- 13 Cheng, J., & Tracy, J. (2014). *The psychology of social*
14 *status* (pp. 3-27). Springer. doi:10.1007/978-1-4939-
15 0867-7_1
- 16 DeWall, C., Lambert, N., Pond, R., Kashdan, T., &
17 Fincham, F. (2011). A grateful heart is a nonviolent
18 heart: Cross-sectional, experience sampling,
19 longitudinal, and experimental evidence. *Social*
20 *Psychological and Personality Science*, 3, 232-240.
21 doi:10.1177/1948550611416675
- 22 Emmons, R., & McCullough, M. (2003). Counting
23 blessings versus burdens: An experimental
24 investigation of gratitude and subjective well-being
25 in daily life. *Journal of Personality and Social*
26 *Psychology*, 84, 377-389. doi:10.1037/0022-
27 3514.84.2.377
- 28 Farwell, L., & Lloyd, R. (1998). Narcissistic processes:
29 Optimistic expectations, favorable self evaluations,
30 and self enhancing attributions. *Journal of*
31 *Personality*, 66, 65-83. doi:10.1111/1467-
32 6494.00003
- 33 Gosling, S. D., Rentfrow, P. J., & Swann, W. B. (2003).
34 A very brief measure of the Big-Five personality
35 domains. *Journal of Research in personality*, 37,
36 504-528.
- 37 Henrich, J. (2015). *The secret of our success: how culture*
38 *is driving human evolution, domesticating our*
39 *species, and making us smarter*. Princeton University
40 Press.
- 41 Inesi, M., Gruenfeld, D., & Galinsky, A. (2012). How
42 power corrupts relationships: Cynical attributions
43 for others' generous acts. *Journal of Experimental*
44 *Social Psychology*, 48, 795-803.
45 doi:10.1016/j.jesp.2012.01.008
- 46 Jia, L., Lee, L., & Tong, E. (2014). Gratitude facilitates

- 1 behavioral mimicry. *Emotion*, 15, 134-138.
2 doi:10.1037/emo0000022
- 3 Jia, L., Tong, E., & Lee, L. (2014). Psychological “gel”
4 to bind individuals’ goal pursuit: Gratitude
5 facilitates goal contagion. *Emotion*, 14, 748-760.
6 doi:10.1037/a0036407
- 7 MacKenzie, M., Vohs, K., & Baumeister, R. (2014). You
8 didn’t have to do that: Belief in free will promotes
9 gratitude. *Personality and Social Psychology*
10 *Bulletin*, 40, 1423-1434.
11 doi:10.1177/0146167214549322
- 12 McCullough, M. E., Emmons, R. A., & Tsang, J. A. (2002).
13 The grateful disposition: a conceptual and empirical
14 topography. *Journal of personality and social*
15 *psychology*, 82, 112-127.
- 16 Ng, J. W. X., Tong, E. M. W., Sim, D. L. Y., Teo, S. W.
17 Y., & Loy, Xingqi. (2017). Gratitude facilitates
18 private conformity: A test of the social alignment
19 hypothesis. *Emotion*, 17, 379-387.
- 20 Oppenheimer, D. M., Meyvis, T., & Davidenko, N. (2009).
21 Instructional manipulation checks: Detecting
22 satisficing to increase statistical power. *Journal of*
23 *Experimental Social Psychology*, 45, 867-872.
- 24 Shiraki, Y. (2016). The effect of gratitude and
25 socioeconomic status on subjective well-being.
26 Manuscript in preparation.
- 27 白木 優馬・五十嵐 祐 (2015). 心理学研究におけるクラウ
28 ドソーシングの利用 名古屋大学大学院教育発達科
29 学研究科紀要 (心理発達科学), 62, 97-105.
- 30 Tesser, A., Gatewood, R., & Driver, M. (1968). Some
31 determinants of gratitude. *Journal of Personality*
32 *and Social Psychology*, 9, 233-236.
33 doi:10.1037/h0025905
- 34 Tiedens, L., Ellsworth, P., & Mesquita, B. (2000).
35 Sentimental stereotypes: Emotional expectations for
36 high- and low-status group members. *Personality and*
37 *Social Psychology Bulletin*, 26, 560-575.
38 doi:10.1177/0146167200267004
- 39 Tsang, J. A. (2006a). Gratitude and prosocial behaviour:
40 An experimental test of gratitude. *Cognition and*
41 *Emotion*, 20, 138-148.
42 doi:10.1080/02699930500172341
- 43 Tsang, J. A. (2006b). The effects of helper intention on
44 gratitude and indebtedness. *Motivation and Emotion*,
45 30, 198-204. doi:10.1007/s11031-006-9031-z
- 46 Watkins, P., Scheer, J., Ovnicek, M., & Kolts, R. (2006).

1 The debt of gratitude: Dissociating gratitude and
2 indebtedness. *Cognition and Emotion*, 20, 217-241.
3 doi:10.1080/02699930500172291

4 Wood, A. M., Froh, J. J., & Geraghty, A. (2010).
5 Gratitude and well-being: A review and theoretical
6 integration. *Clinical psychology review*. 30, 890-905.

7 Wood, A., Joseph, S., & Maltby, J. (2009). Gratitude
8 predicts psychological well-being above the big five
9 facets. *Personality and Individual Differences*, 46,
10 443-447. doi:10.1016/j.paid.2008.11.012

11 Wood, A., Maltby, J., Stewart, N., Linley, P., & Joseph,
12 S. (2008). A social-cognitive model of trait and
13 state levels of gratitude. *Emotion*, 8, 281-290.
14 doi:10.1037/1528-3542.8.2.281

15

1 脚注

2

3 表題ページの脚注

4 1 日本学術振興会特別研究員

5 2 名古屋大学大学院教育発達科学研究科

6 3 シンガポール国立大学

7

1 本文中の脚注

2 4 参加者の国籍，人種，就労状況の内訳は以下のとおり
3 であった。国籍：アフリカ 1.8%，アジア 11.9%，ヨー
4 ロッパ 58.1%，北アメリカ 10.1%，南アメリカ 17.5%，
5 不明 0.6%。人種：ネイティブアメリカン 0.6%，アラブ
6 系 1.8%，アジア系 13.1%，黒人 1.2%，白人 63.1%，ヒ
7 スパニック系 15.9%。就労状況：被雇用者 46.0%，自営
8 業 25.6%，専業主婦 3.8%，学生 8.9%，無職 13.5%，不
9 明 2.2%。
10

圖表一覽

Table 1 Positive and negative relationships among dominance, prestige, gratitude and other personality traits in previous studies

	Dominance ¹	Prestige ¹	Gratitude
Extraversion	+	+	+ ²
Agreeableness	—	+	+ ²
Conscientiousness	+	+	+ ²
Neuroticism	+	—	— ²
Openness	<i>n.s.</i>	+	+ ²
Self-esteem	—	+	+ ³
Narcissism	+	+	— ⁴
Agression	+	—	— ⁵

1) Cheng et al. (2013), 2) Emmons & McCullough (2003),

3) Bartlett et al. (2016), 4) Farwell & Lloyd. (1998), 5) DeWall et al. (2012).

Table 2 Means and correlations among variables

	<i>M</i>	<i>SD</i>	2	3	4	5	6	7	8
1 GQ-6	4.95	(1.02)	.562***	-.034	.385***	.343***	.348***	-.340***	.257***
2 Prestige	4.84	(0.86)	-	.274***	.247***	.492***	.390***	-.362***	.361***
3 Dominance	3.74	(1.01)		-	-.240***	.147***	-.030	.029	.257***
4 Agreeableness	4.65	(1.10)			-	.178***	.312***	-.249***	.118**
5 Openness	5.02	(1.15)				-	.277***	-.221***	.407***
6 Conscientiousness	5.01	(1.26)					-	-.345***	.182***
7 Neuroticism	3.51	(1.28)						-	-.158***
8 Extraversion	3.72	(1.33)							-

*** $p < .001$, ** $p < .01$